

令和7年度（2025年度）

中学校社会科用

「新編 新しい社会 公民」

年間指導計画作成資料

令和7年（2025年）1月29日版

※単元ごとの配当時数、学習目標、評価規準などは、今後変更になる可能性があります。ご了承ください。

東京書籍

公民的分野

指導計画表・評価規準

※本資料で1時間ごとに示している評価規準の例は、学習改善につなげるための形成的な評価の一例であり、必ずしも1時間ごとに事実的な知識の獲得を評価する趣旨ではありません。

評価の観点	知技	知識・技能
	思判表	思考・判断・表現
	態度	主体的に学習に取り組む態度
評価規準の例	○	評定に用いる評価
	●	学習改善につなげる評価

公民的分野の学習の初めに

(配当 1 時間)

◆評価規準の例

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
1	巻頭 1～3、 p.1	■ 持続可能な社会の実現に向けて ■ 公民的分野の学習の初めに	・ 公民的分野の学習を始めるにあたって、現代社会の課題や持続可能な社会について考える。	知技	● 公民的分野の学習内容のあらましと学習のねらい、地理的分野や歴史的分野との関係について理解している。
			・ 地理的分野や歴史的分野の学習内容をふり返るとともに、教科書の目次などを基に、これから学習する公民的分野の学習の概要を把握する。	態度	● 現代社会の課題について考え、これからの公民学習を通して主体的に社会に関わろうとしている。

◆評価規準の例（章全体）

指導 目標	・現代日本の特色としてグローバル化、情報化、少子高齢化などが見られることについて理解させる。	知識・技能	○現代日本の特色としてグローバル化、情報化、少子高齢化などが見られることについて理解している。
	・現代社会における文化の意義や影響について理解させる。		○現代社会における文化の意義や影響について理解している。
	・現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解させる。		○現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解している。
	・人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解させる。		○人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解している。
	・位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、グローバル化、情報化、少子高齢化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、グローバル化、情報化、少子高齢化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現している。
	・位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現させる。		○位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。
	・対立と合意、効率と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現させる。		○対立と合意、効率と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現している。
	・私たちが生きる現代社会と文化の特色について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	主体的に学習に取り組む態度	○私たちが生きる現代社会と文化の特色について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
	・現代社会をとらえる枠組みについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。		○現代社会をとらえる枠組みについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

1 節 現代社会の特色と私たち

(配当 5 時間)

学習指導要領との関連 : A (1)

◆評価規準の例 (節全体)

指導 目標	・現代日本の特色としてグローバル化、情報化、少子高齢化などが見られることについて理解させる。	知識・技能	○現代日本の特色としてグローバル化、情報化、少子高齢化などが見られることについて理解している。
	・位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、グローバル化、情報化、少子高齢化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、グローバル化、情報化、少子高齢化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現している。
	・私たちが生きる現代社会について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●私たちが生きる現代社会について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

◆評価規準の例 (各時間)

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
2	p.6~7	■導入の活動 T市のまちの様子から現代社会をながめてみよう	・教科書の資料や自分の体験などを通して、まちの様子に見られるグローバル化、少子高齢化、情報化を読み取り、まとめる。	知技	●教科書のイラストや写真から、現代社会の特色を読み取ったり、読み取ったことを、思考ツールを使って分かりやすく分類したり説明したりしている。
			・資料の読み取りなどを基に、現代社会の特色について考察する。	思判表	●現代社会の特色について、対話的な活動を通して考察し、適切に表現している。
			・持続可能な社会の実現に向けて、章の学習に見通しを持って取り組もうとする。	態度	●持続可能な社会の実現に向けて私たちに何ができるかについての考察に、章の学習の見通しを持って取り組もうとしている。
3	p.8~9	1 持続可能な社会に向けて	・持続可能性とはどのような考えに基づいているか理解する。	知技	●持続可能性とはどのようなことを意味しているか、本文の読み取りを通して理解している。
			・持続可能な社会の実現に必要な態度について、社会参画と関連付けて考察し、表現する。	思判表	●持続可能な社会の実現に必要な態度とはどのようなものか、社会参画と関連付けて考察し、表現している。
4	p.10~11	2 グローバル化	・グローバル化とは生活や社会のどのような変化か、具体的な事例を通して理解する。	知技	●グローバル化とは生活や社会のどのような変化か、本文の読み取りを通して理解している。
			・グローバル化の進展で生活や社会が豊かで便利になった点や、課題について考察する。	思判表	●グローバル化の進展で生活や社会が豊かで便利になった点や、課題について考察し、表現している。
5	p.12~13	3 情報化	・情報化の進展で生活や社会が豊かで便利になった点について理解する。	知技	●情報化の進展で生活や社会が豊かで便利になった点について理解している。
			・情報化の進展による課題を挙げ、私たちが解決のためにできることについて考察し、表現する。	思判表	●情報化の進展による課題を挙げ、私たちが解決のためにできることについて考察し、表現している。

-	p.14～15	[もっと知りたい！] 新しい情報技術で 社会が変わる	・ AIやIoTなどの新しい情報技術の導入が進展していることを知り、それによってもたらされる社会の変化について理解する。	知技	●AIやIoTなどの新しい情報技術が社会を大きく変化させ、現代社会の課題の解決に向けてさまざまな場面で活用されていることを理解している。
			・ 新しい情報技術が現代社会の課題の解決に役立っていることを知り、今後の情報技術の進展の可能性について自分の考えを表現する。	思判表	●新しい情報技術がどのような場面で活用されているか、また、どのようなことを可能にしているのかについて、考察し、表現している。
6	p.16～17	4 少子高齢化	・ 人口ピラミッドなどの統計資料を基に、日本における少子高齢化の進行と、その原因について理解する。	知技	●少子化の原因として考えられることを本文の読み取りを通して理解している。
			・ 少子高齢化の進行や家族の多様化に伴う課題、解決に向けた取り組みについて、自分の考えを表現する。	思判表	●身近な地域での少子高齢化への対応を調べる活動を基に、高齢者支援と子育て支援について考察し、表現している。
			・ 1 節の学習内容を基に、現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られることについて理解する。	知技	○1 節の学習内容を基に、現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られることについて理解している。
			・ 1 節の学習内容をふり返って、位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、グローバル化、少子高齢化、情報化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察、表現する。	思判表	○1 節の学習内容をふり返って、位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、グローバル化、少子高齢化、情報化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察、表現している。
			・ 私たちが生きる現代社会について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする。	態度	●私たちが生きる現代社会について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。

2 節 私たちの生活と文化

(配当 3 時間)

学習指導要領との関連 : A (1)

◆評価基準の例 (節全体)

指導 目標	・現代社会における文化の意義や影響について理解させる。	知識・技能	○現代社会における文化の意義や影響について理解している。
	・位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。
	・文化の特色について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●文化の特色について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

◆評価基準の例 (各時間)

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価基準の例	
7	p.18～19	1 私たちの生活と文化の役割	・文化の具体的な内容について理解する。	知技	●文化の具体的な内容を、科学、宗教、芸術の分野を例に挙げ、理解している。
			・科学・宗教・芸術を中心に、文化の役割について考察する。	思判表	●科学、宗教、芸術の分野を例に文化の果たす役割について考察し、表現している。
8	p.20～21	2 伝統文化の継承と新たな文化の創造	・日本の伝統文化の具体的な内容や私たちの生活への影響について理解する。	知技	●身近な地域に見られる伝統文化の具体的な内容について理解している。
			・日本の文化の地域的多様性や、伝統文化の継承と保存について考察する。	思判表	●伝統文化を継承し、保持するために私たちにできることは何かを考察し、表現している。
9	p.22～23	3 多様な文化の意義	・多文化共生とはどのようなことを意味しているか理解する。	知技	●多文化共生とはどのようなことを意味しているか、本文の読み取りを通して理解している。
			・多文化共生の社会を築くために、私たちに求められていることについて考察する。	思判表	●多文化共生の社会を築くために、私たちにできる具体的な取り組みについて考察している。
			・2 節の学習内容を基に、現代社会における文化の意義や影響について理解する。	知技	○2 節の学習内容を基に、現代社会における文化の意義や影響について理解している。
			・2 節の学習内容をふり返って、位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察、表現する。	思判表	○2 節の学習内容をふり返って、位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察、表現している。
			・文化の特色について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする。	態度	●文化の特色について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。

3 節 現代社会の見方や考え方

(配当 5 時間)

学習指導要領との関連 : A (2)

◆評価規準の例 (節全体)

指導 目標	・現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解させる。	知識・技能	○現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解している。
	・人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解させる。		○人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解している。
	・対立と合意、効率と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○対立と合意、効率と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現している。
	・現代社会をとらえる枠組みについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●現代社会をとらえる枠組みについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

◆評価規準の例 (各時間)

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
10	p.24～25	1 社会集団の中で生きる私たち	・自分が家族や地域社会などの複数の社会集団に所属していることや、人間が社会的存在であることを理解する。	知技	●自分が家族や地域社会などの複数の社会集団に所属していることや、人間が社会的存在であることを理解している。
			・社会集団における対立の存在と合意への努力について考察する。	思判表	●社会集団における対立の存在に気付くとともに、合意を目指すことが重要であることについて考察し、表現している。
11	p.26～27	2 決まりを作る目的と方法	・物事の決定の仕方や決まりの意義について理解する。	知技	●物事の決定の仕方や決まりの意義について本文の読み取りを通して理解している。
			・物事の決定の仕方や決まりの意義について社会集団と関連付けて考察し、表現する。	思判表	●決まりが必要な理由について対立と合意に着目し、社会集団と関連付けて考察し、表現している。
12	p.28～29	3 効率と公正	・合意を得るためには効率と公正の考え方が重要であり、その考え方を理解する。	知技	●効率と公正の意味とその重要性について本文の読み取りを通して理解している。
			・「1年前の学校でのトラブルについて考えよう」の事例について、対立と合意、効率と公正に着目して、考察する。	思判表	●みんなが納得できる解決策の在り方について、対立と合意、効率と公正に着目して考察し、表現している。

13	p.30～31	4 決まりの見直し	・必要に応じて決まりを見直すことの重要性を理解する。	知技	●必要に応じて決まりを見直す意義について、身の回りでルールが変わった例を通して理解している。
			・決まりを見直す際の見直し方について対立と合意、効率と公正に着目して考察する。	思判表	●ルールを見直す際の見直し方について対立と合意、効率と公正に着目して考察している。
			・3節の学習内容を基に、現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解する。	知技	○3節の学習内容を基に、現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解している。
			・3節の学習内容を基に、人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解する。	知技	○3節の学習内容を基に、人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解している。
			・3節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、決まりの役割について多面的・多角的に考察し、表現する。	思判表	○3節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、決まりの役割について多面的・多角的に考察し、表現している。
			・現代社会をとらえる枠組みについて、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする。	態度	●現代社会をとらえる枠組みについて、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。
14	p.32～35	■まとめの活動 第1章の学習をまとめよう ■まとめの活動 T市の新しい公園の使用ルールを考えよう	・第1章の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正などに着目して多面的・多角的に考察する。	思判表	○第1章の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正などに着目して、社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、決まりの役割について多面的・多角的に考察し、表現している。
			・対立から合意に導くための解決策を、決まりを評価する視点に基づいて検討することを通して自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする。	態度	○現代社会をとらえる枠組みについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
-	p.36	[もっと知りたい!] 伝統文化がつながり、過去と現在、人と人、そして世界中の人々との絆	・日本の無形文化遺産や私たちの生活との関連について具体的な事例を基に理解する。	思判表	●日本の無形文化遺産や私たちの生活との関連について具体的な事例を基に理解している。
			・未来に伝えたい日本の文化について根拠を持って説明する学習を通して、主体的に社会に関わろうとする。	態度	●未来に伝えたい日本の文化について根拠を持って説明する学習を通して、主体的に社会に関わろうとしている。

第2章 個人の尊重と日本国憲法

(配当17時間)

◆評価規準の例（章全体）

指導 目標	・人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解させる。	知識・技能	○人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。
	・民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解させる。		○民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解している。
	・日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解させる。		○日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解している。
	・日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解させる。		○日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解している。
	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。
	・人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	主体的に学習に取り組む態度	○人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

1 節 人権と日本国憲法

(配当 6 時間)

学習指導要領との関連 : C (1)

◆評価規準の例 (節全体)

指導 目標	・ 人権思想の歴史など歴史的分野の学習内容を踏まえて、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解させる。	知識・技能	○人権思想の歴史など歴史的分野の学習内容を踏まえて、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解している。
	・ 日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解させる。		○日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解している。
	・ 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、対話的な活動を通じ、日本国憲法が大切にされてきた理由について多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、対話的な活動を通じ、日本国憲法が大切にされてきた理由について多面的・多角的に考察し、表現している。
	・ 日本国憲法が大切にされてきた理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	主体的に学習に取り組む態度	● 日本国憲法が大切にされてきた理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

◆評価規準の例 (各時間)

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
15	p.37～39	■ 章扉 ■ 導入の活動 ちがいのちがい	・ 文化や個性の多様性について9枚のカードから具体的な事例を整理し、自らの考えとともにまとめる。	知技	●文化や個性の多様性について具体的な事例を整理し、自らの考えとともに表（マトリックス）にまとめている。
			・ 文化や個性の多様性について、カードに示された事例についての対話的な活動を通して適切に表現する。	思判表	●文化や個性の多様性について対話的な活動を通して個人の尊重に着目して、適切に表現している。
			・ 日本国憲法が大切にされてきた理由の考察に向けて、章の学習に見通しを持って取り組もうとする。	態度	●日本国憲法が大切にされてきた理由についての考察に向けて、章の学習に見通しを持って取り組もうとしている。
16	p.40～41	1 人権の歴史と憲法	・ 人の支配と法の支配の違いについて、資料4などを通して両者の比較から理解する。	知技	●人権思想と憲法の歴史の学習を踏まえ、人権と憲法の関係から法の支配について理解している。
			・ 人権と憲法にはどのような関係があるかについて、人権思想と憲法の歴史と関連させて考察する。	思判表	●人権と憲法にはどのような関係があるかについて、人権思想と憲法の歴史と関連させて考察している。
17	p.42～43	2 日本国憲法とは	・ 大日本帝国憲法と日本国憲法の比較を通して、日本国憲法の三つの基本原理を理解する。	知技	●日本国憲法の三つの基本原理について、本文の読み取りを通して理解している。
			・ 日本国憲法はどのような考え方に基いて作られているかについて、大日本帝国憲法との比較から適切に表現する。	思判表	●日本国憲法の仕組みの特色を、大日本帝国憲法との違いに着目して適切に表現している。

18	p.44～45	3 国民主権と私たちの責任	・ 国民主権の意味について、選挙、憲法改正の国民投票、象徴としての天皇などの事例を通して理解する。	知技	● 国民主権とは、どのようなことを意味しているか、本文の読み取りを通して理解している。
			・ なぜ国民主権は大切なのかについて、法の支配に着目して適切に表現する。	思判表	● 国民主権が重要な理由を、学習した内容を活用し、法の支配に着目して適切に表現している。
19	p.46～47	4 平和主義の意義と日本の役割	・ 日本が掲げる平和主義について、歴史的分野の学習内容や自衛隊の活動などを踏まえて具体的な事例を通して理解する。	知技	● 日本が平和主義を掲げる理由について本文の読み取りを通して理解している。
			・ 平和主義を掲げる日本は国際社会でどのような役割を果たしていくべきか、具体的な事例を挙げながら、適切に表現する。	思判表	● 国際平和のために日本が果たす役割について、自衛隊の活動や、被爆国としての日本の立場を踏まえて、適切に表現している。
20	p.48～49	5 基本的人権と個人の尊重	・ 個人の尊重とはどのようなことを意味しているか理解する。	知技	● 個人の尊重とはどのようなことを意味しているか理解している。
			・ なぜ基本的人権を保障することが重要なのか、資料に示された事例と憲法との関係を基に個人の尊重や法の下での平等と関連付けて、対話的な活動を通して適切に表現する。	思判表	● 基本的人権の保障に必要なことを、法の下での平等に着目して考察している。
			・ 1 節の学習内容を基に、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることや、日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解する。	知技	○ 1 節の学習内容を基に、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則としていることや、日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解している。
			・ 1 節の学習内容をふり返って、基本的人権の保障に必要なことを、個人の尊重や法の下での平等と関連付けて、表現する。	思判表	○ 1 節の学習内容をふり返って、基本的人権の保障に必要なことを、個人の尊重や法の下での平等と関連付けて、適切に表現している。
			・ 探究のステップにある、日本国憲法が大切にされてきた理由の考察に自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組むことを通して、主体的に社会に関わろうとする。	態度	● 具体的な事例を基に、日本国憲法が大切にされてきた理由を、自らの学習をふり返りながら粘り強く考察することを通して、主体的に社会に関わろうとしている。

2 節 人権と共生社会

(配当7時間)

学習指導要領との関連：C(1)

◆評価規準の例（節全体）

指導 目標	・人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解させる。	知識・技能	○人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。
	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、対話的な活動を通じ、日本国憲法において人権保障が大切にされている理由について多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、対話的な活動を通じ、日本国憲法において人権保障が大切にされている理由について多面的・多角的に考察し、表現している。
	・人権保障が大切にされている理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●人権保障が大切にされている理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
21	p.50～51	1 平等権① 共生社会を目指して	・日本にはどのような差別があるかを部落差別、アイヌ民族への差別、在日韓国・朝鮮人への差別など具体的な事例を通して理解する。	知技	●現在も日本に残っている差別の例を本文の読み取りを通して理解している。
			・差別をなくすためにどのような努力がなされてきたか、個人の尊重の観点から適切に表現する。	思判表	●差別をなくすために重要なことを、個人の尊重の観点から考察し、表現している。
22	p.52～53	2 平等権② 共生社会を目指して	・共生社会を築いていくために、インクルージョンの考察など対話的な活動を通してさまざまな立場の人がいることを理解する。	知技	●インクルージョンの実現とはどのようなことを意味しているか、本文の読み取りを通して理解している。
			・共生社会を築いていくために、私たちにはどのような取り組みや努力が求められているか、インクルージョンの実現と関連付けて考察し、表現する。	思判表	●共生社会の実現のために必要なことを平等権の学習全体を通して考察し、表現している。
23	p.54～55	3 自由権 自由に生きる権利	・自由権とはどのような権利であるか、また、さまざまな自由があることを体系的に理解する。	知技	●自由権にはどのような種類があるか、本文の読み取りを通して理解している。
			・自由権は日本国憲法でどのように保障されているか、Yチャートの活動など対話的な活動を通して個人の尊重の観点から考察し、表現する。	思判表	●自由権が保障されることが重要な理由を、個人の尊重の観点から考察し、表現している。
24	p.56～57	4 社会権 豊かに生きる権利	・社会権とはどのような権利であるか、また、社会権にはさまざまな権利があることを体系的に理解する。	知技	●社会権にはどのような種類があるか、本文の読み取りを通して理解している。
			・社会権が日本国憲法でどのように保障されているか、生存権に関する対話的な活動などを通して自由権（経済活動の自由）との関係から考察し、表現する。	思判表	●社会権が保障された理由を、自由権（経済活動の自由）との関係から考察し、表現している。

25	p.58～59	5 人権を確実に保障するための権利	・ 私たちの人権保障を確かなものにするために、日本国憲法では具体的にどのような権利が保障されているかについて理解する。	知技	●参政権や請求権にはどのような種類があるか、本文の読み取りを通して理解している。
			・ 私たちの人権保障を確かなものにするために、参政権や請求権が日本国憲法で保障されている理由について資料の事例を通して考察し、表現する。	思判表	●参政権や請求権が人権の保障にとって重要な理由を、個人の尊重の観点から考察し、表現している。
26	p.60～61	[18歳へのステップ] 18歳でできること、20歳でできること	・ 法律上の「成人」の意味や、18歳でできること、20歳でできることについて資料を通して理解する。	知技	●法律上の「成人」の意味や、18歳でできること、20歳でできることについて資料を通して理解している。
			・ 18歳でできること、20歳でできることについて調べることを通して、主体的に社会に参加しようとする。	態度	●18歳でできること、20歳でできることについて調べることを通して、主体的に社会に参加しようとしている。
27	p.62～63	6 「公共の福祉」と国民の義務	・ 自由や権利の限界、制限されている例を本文や資料の読み取りを通して理解する。	知技	●自由や権利の限界、制限されている例を本文や資料の読み取りを通して理解している。
			・ 国民の義務と日本国憲法の関係について考察する。	思判表	●国民の義務と日本国憲法の関係について考察している。
			・ 2節の学習内容を基に、人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解する。	知技	○2節の学習内容を基に、人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。
			・ 2節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、日本国憲法において、人権保障が大切にされている理由について、対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、表現する。	思判表	○2節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、日本国憲法において、人権保障が大切にされている理由について、対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、表現している。
			・ 探究のステップにある、「憲法では人権がどのように保障されているか」の考察に粘り強く取り組むことを通して、自らの学習をふり返りながら主体的に社会に関わろうとする。	態度	●憲法の人権保障によって、だれのどのような権利が守られているかについて、具体的な事例を基に、自らの学習をふり返りながら粘り強く考察することを通して、主体的に社会に関わろうとしている。

3 節 これからの人権保障

(配当 4 時間)

学習指導要領との関連 : C (1)

◆評価規準の例 (節全体)

指導 目標	・ 社会の変化に伴って人権の考え方が変化していく中でも、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解させる。	知識・技能	○社会の変化に伴って人権の考え方が変化していく中でも、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解している。
	・ 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、対話的な活動を通じ、社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、対話的な活動を通じ、社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について多面的・多角的に考察し、表現している。
	・ 社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

◆評価規準の例 (各時間)

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
28	p.64～65	1 新しい人権① 産業や科学技術の 発展と人間	・ 産業や科学技術の発展に伴う具体的な課題を資料から読み取り、認められてきた権利との関係を理解する。	知技	●環境権や自己決定権など「新しい人権」が認められてきた理由について、理解している。
			・ 産業や科学技術の発展に伴ってどのような課題が生まれどのような権利が認められてきたのか、適切に表現する。	思判表	●新しい人権がどのような対立を解消するためのものか、その関係について、適切に表現している。
29	p.66～67	2 新しい人権② 情報化の進展と人 権	・ 情報化の進展に伴う具体的な課題を資料から読み取り、認められてきた権利との関係を理解する。	知技	●情報化の進展に伴う具体的な課題と認められてきた権利の関係について、理解している。
			・ 情報化の進展に伴ってどのような課題が生まれどのような権利が認められてきたのか、適切に表現する。	思判表	●インターネットの発達など、情報化の進展に伴ってどのような課題が生まれどのような権利が認められてきたのか、適切に表現している。

30	p.68～69	3 グローバル社会と人権	・国際社会にはどのような人権上の課題があるか理解する。	知技	●人権保障のためにさまざまな条約があることを理解している。
			・人権上の課題の解決に向けてどのような取り組みがなされてきたか考察し、表現する。	思判表	●人権上の課題の解決に取り組む組織と、担っている役割について考察している。
			・3節の学習内容を基に、社会の変化に伴って人権の考え方が変化していく中で、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解する。	知技	○3節の学習内容を基に、社会の変化に伴って人権の考え方が変化していく中で、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解している。
			・3節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について、対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、表現する。	思判表	○3節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について、対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、表現している。
			・探究のステップにある、新しい人権が認められてきた理由の考察に自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする。	態度	●具体的な事例を基に、新しい人権が認められてきた理由の考察に自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。
31	p.70～73	■まとめの活動 第2章の学習をまとめよう ■まとめの活動 ちがいのちがいを追究しよう	・第2章の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、対話的な活動を通じ、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について、多面的・多角的に考察、表現する。	思判表	○第2章の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。
			・日本国憲法が保障する権利を守るために、私たちはどのように社会に関わるべきか自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする。	態度	○日本国憲法が保障する権利を守るために、私たちはどのように社会に関わるべきか自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。
-	p.74～75	[もっと知りたい！] 先住民族としてのアイヌ民族	・アイヌ民族をめぐる問題の事例を基に、国内の人権上のさまざまな課題を国際的な動きと関連付けて適切に表現する。	思判表	●アイヌ民族をめぐる問題の事例を基に、国内の人権上のさまざまな課題を国際的な動きと関連付けて考察し、適切に表現している。
			・アイヌ民族に対する政策の問題点を挙げ、問題点の解決に向けどのようにすればよいか、公正の観点から、適切に表現する。	思判表	●アイヌ民族に対する政策の問題点を挙げ、問題点の解決に向けどのようにすればよいか、公正の観点から考察し、適切に表現している。
-	p.76	[もっと知りたい！] だれもが暮らしやすい共生社会に	・障がいのある人や多様な性の意識への配慮がなされる社会を築くためにどのようにすればよいか、個人の尊重の観点から、適切に表現する。	思判表	●障がいのある人や多様な性の意識への配慮がなされる社会を築くためにどのようにすればよいか、個人の尊重の観点から考察し、適切に表現している。
			・障がいのある人やさまざまな性の意識を持つ人が生きやすい社会を創るために主体的に社会に参画しようとする。	態度	●第2章の学習をふり返りながら、障がいのある人やさまざまな性の意識を持つ人が生きやすい社会を創るために主体的に社会に参画しようとしている。

第3章 現代の民主政治と社会

(配当23時間)

◆評価規準の例（章全体）

指導 目標	・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解させる。	知識・技能	○国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。
	・議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解させる。		○議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。
	・国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解させる。		○国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。
	・地方自治の基本的な考え方について理解させる。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解させる。		○地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。
	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治や国の政治の在り方、地方自治の課題とその解決策について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。	思考・判断・表現	○対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治や国の政治の在り方、地方自治の課題とその解決策について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
	・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	主体的に学習に取り組む態度	○民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

1 節 現代の民主政治

(配当 7 時間)

学習指導要領との関連 : C (2)

◆評価規準の例 (節全体)

指導 目標	・ 議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解させる。	知識・技能	○ 議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。
	・ 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○ 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察し、表現している。
	・ 民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	主体的に学習に取り組む態度	● 民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

◆評価規準の例 (各時間)

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
32	p.77~79	■ 章扉 ■ 導入の活動 だれを市長に選ぶ？	・ 架空の市長選挙の公約について整理し、自らの考えとともに表 (マトリックス) にまとめる。	知技	● 架空の市長選挙の公約について整理し、自らの考えとともに表 (マトリックス) にまとめている。
			・ 架空の市長選挙の公約について対話的な活動を通して個人の尊重に着目して、適切に表現する。	思判表	● 架空の市長選挙の公約について対話的な活動を通して個人の尊重に着目して、適切に表現している。
			・ 民主主義に基づく政治についての考察に、章の学習の見通しを持って取り組もうとする。	態度	● 民主主義に基づく政治についての考察に、章の学習の見通しを持って取り組もうとしている。
33	p.80~81	1 政治と民主主義	・ 民主主義がどのような考え方であるか理解する。	知技	● 民主政治における物事の決定の仕組みについて理解している。
			・ 民主主義で物事を決める際に必要とされることや、私たちに求められていることについて考察し、適切に表現する。	思判表	● 民主主義で物事を決める際に必要とされることや、私たちに求められていることについて考察し、適切に表現している。
34	p.82~83	2 選挙の意義と仕組み	・ 選挙がなぜ大切であるかについて理解する。	知技	● 選挙がなぜ大切であるかについて理解している。
			・ 選挙が果たしている役割について、民主主義に着目して考察し、表現する。	思判表	● 選挙が果たしている役割について、民主主義に着目して考察し、表現している。

35	p.84～85	3 政党の役割	・ 政党の果たす役割について理解する。	知技	●日本で行われている政党政治の特徴を、本文の読み取りを通して理解している。
			・ 国民と政党の関係について、民主主義に着目して考察し、表現する。	思判表	●国民と政党の関係について、民主主義に着目して考察し、表現している。
36	p.86～87	4 マスメディアと世論	・ マスメディアの役割と政治に与える影響について理解する。	知技	●マスメディアの役割と政治に与える影響について理解している。
			・ 私たちがマスメディアと接する際に注意すべきことを考察し、表現する。	思判表	●私たちがマスメディアと接する際に注意すべきことを考察し、表現している。
37	p.88～89	5 選挙の課題と私たちの政治参加	・ 私たちができる政治参加の方法を理解する。	知技	●私たちができる政治参加の方法を理解している。
			・ 選挙の投票率を上げるにはどうしたらよいか、政治参加に着目して考察し、表現する。	思判表	●選挙の投票率を上げるにはどうしたらよいか、政治参加に着目して考察し、表現している。
			・ 1 節の学習内容を基に、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解する。	知技	○1 節の学習内容を基に、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。
			・ 1 節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察し、表現する。	思判表	○1 節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察し、表現している。
			・ 民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする。	態度	●民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。
38	p.90～91	[18歳へのステップ] 選挙の流れ	・ 実際の選挙がどのように行われているのか、資料を通して一連の流れを理解する。	知技	●実際の選挙がどのように行われているのか、資料を通して一連の流れを理解している。
			・ 具体的な選挙の手続きを調べることを通して、主体的に政治に参加しようとする。	態度	●具体的な選挙の手続きを調べることを通して、主体的に政治に参加しようとしている。

2 節 国の政治の仕組み

(配当10時間)

学習指導要領との関連：C(2)

◆評価規準の例（節全体）

指導 目標	・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解させる。	知識・技能	○国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。
	・国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解させる。		○国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。
	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して国の政治の在り方について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して国の政治の在り方について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察し、表現している。
	・国の政治の在り方について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●国の政治の在り方について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標		評価規準の例
39	p.92～93	1 国会の地位と仕組み	・国会の地位と仕組みについて理解する。	知技	●衆議院と参議院の違いについて、本文や資料の読み取りを通して理解している。
			・国会が「国権の最高機関」とされている理由について、民主主義に着目して考察し、適切に表現する。	思判表	●国会が「国権の最高機関」とされている理由について、民主主義に着目して考察し、適切に表現している。
40	p.94～95	2 国会の仕事① 法律の制定と予算の議決	・国会の主な仕事について、理解する。	知技	●国会の主な仕事について、本文や資料の読み取りを通して理解している。
			・「衆議院の優越」が定められている理由について、効率と公正に着目して考察し、表現する。	思判表	●「衆議院の優越」が定められている理由について、効率と公正に着目して考察し、表現している。
41	p.96～97	3 国会の仕事② 行政の監視	・国会と行政との関係について理解する。	知技	●国会が行政権との関係の中で担っている役割について本文の読み取りを通して理解している。
			・私たちと国会との関係について、考察し、表現する。	思判表	●私たちと国会との関係について、考察し、表現している。
42	p.98～99	4 行政の仕組みと内閣	・内閣の役割と仕組みについて理解する。	知技	●内閣の主な仕事について、本文や資料の読み取りを通して理解している。
			・日本の内閣と国会との関係について、考察し、表現する。	思判表	●日本の内閣と国会との関係について、考察し、表現している。
43	p.100～101	5 行政の役割と行政改革	・行政における内閣の役割について理解する。	知技	●行政における内閣の役割について理解している。
			・行政改革が進められた理由について、縦割り行政などの課題を基に考察し、表現する。	思判表	●行政改革が進められた理由について、縦割り行政などの課題を基に考察し、表現している。

44	p.102～103	6 裁判所の仕組みと働き	・私たちの生活における裁判の役割について理解する。	知技	●裁判所の種類と、それぞれが行っている裁判について本文や資料の読み取りを通して理解している。
			・司法権の独立の原則が必要な理由について、個人の尊重に着目して考察し、表現する。	思判表	●司法権の独立の原則が必要な理由について、個人の尊重に着目して考察し、表現している。
45	p.104～105	7 裁判の種類と人権	・裁判はどのような仕組みがあるかについて理解する。	知技	●裁判において、被疑者以外に裁判に出席する人と、それぞれの役割について、本文の読み取りを通して理解している。
			・裁判によって守られている人権について考察し、表現する。	思判表	●裁判によって守られている人権について、2章の学習をふり返りながら考察し、表現している。
46	p.106～107	8 私たちの司法と裁判員制度	・裁判がより身近で公正なものになるための取り組みについて理解する。	知技	●裁判員が、裁判官とともに担当する役割を、本文や資料の読み取りを通して理解している。
			・裁判員制度や取り調べの可視化が導入された理由について、個人の尊重に着目して考察し、表現する。	思判表	●裁判員制度や取り調べの可視化が導入された理由について、個人の尊重に着目して考察し、表現している。
47	p.108～109	[みんなでチャレンジ] 模擬裁判をやってみよう	・法に基づいた論理的な思考力や、多面的・多角的な物の見方、自分の意見について根拠を挙げて表現する。	思判表	●資料を的確に読み取って必要な情報を取り出したり、争点を整理したりして、公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。
			・主権者として、裁判員制度への参加を通して主体的に社会に関わろうとする。	態度	●主権者として、裁判員制度への参加を通して主体的に社会に関わろうとしている。
48	p.110～111	9 三権の抑制と均衡	・日本の三権相互の関係について理解する。	知技	●三権がたがいに抑制し合っている内容について本文や資料の読み取りから理解している。
			・三権分立が採られている理由について考察する。	思判表	●三権分立が採られている理由について、人権の観点から考察している。
			・2節の学習内容を基に、国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割について、また、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解する。	知技	○2節の学習内容を基に、国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割について、また、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。
			・2節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して国の政治の在り方について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察し、表現させる。	思判表	○2節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して国の政治の在り方について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察し、表現している。
			・国の政治の在り方について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	態度	●国の政治の在り方について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

3節 地方自治と私たち

(配当 6 時間)

学習指導要領との関連 : C (2)

◆評価規準の例 (節全体)

指導 目標	・地方自治の基本的な考え方について理解させる。 その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解させる。	知識・技能	○地方自治の基本的な考え方について理解している。 その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。
	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、地方自治の課題とその解決策について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、地方自治の課題とその解決策について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察し、表現している。
	・地方自治について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●地方自治について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

◆評価規準の例 (各時間)

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
49	p.112～ 113	1 地方自治の考え方と役割	・地方公共団体の役割について理解する。	知技	●地方公共団体の役割について理解している。
			・地方自治がどのような考えに基づいているか、地方自治の原則に着目して考察する。	思判表	●地方自治が「民主主義の学校」と呼ばれる理由について、地方自治の原則に着目して考察し、表現している。
50	p.114～ 115	2 地方自治の仕組み	・地方自治の仕組みについて理解する。	知技	●地方議会や首長が果たしている役割について、本文の読み取りを通して理解している。
			・地方自治での二代表制の特徴について、国の政治との違いに着目して考察し、表現する。	思判表	●地方自治での二代表制の特徴について、国の政治との違いに着目して考察し、表現している。
51	p.116～ 117	3 地方公共団体の課題	・地方公共団体にはどのような課題があるかについて理解する。	知技	●地方公共団体の財政を支える収入について、本文や資料の読み取りを通して理解している。
			・自分が住む地方公共団体の課題を調べ、解決のために自分にできることを考察、構想し、表現する。	思判表	●自分が住む地方公共団体の課題を調べ、解決のために自分にできることを考察、構想し、表現している。

52	p.118～119	4 住民参加の拡大と私たち	・住民が地方公共団体の政治に参加する方法について理解する。	知技	●住民が地方公共団体の政治に参加する方法について理解している。
			・住民の声を生かした政治を実現するために、どのような取り組みがなされるべきか考察する。	思判表	●住民の声を生かした政治を実現するために、どのような取り組みがなされるべきか考察している。
			・3節の学習内容を基に、地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解する。	知技	○3節の学習内容を基に、地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。
			・3節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、地方自治の課題とその解決策について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察し、表現させる。	思判表	○3節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、地方自治の課題とその解決策について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察し、表現している。
			・地方自治について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	態度	●地方自治について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
53	p.120～121	[みんなでチャレンジ] 政治参加をしてみよう	・見学や聞き取り調査などを通して、身近な地域のまちづくりについて調べ、考えたことを提言としてまとめる。	思判表	●地域住民の一人として、地域の政治や課題について積極的に調べ、解決策を提案している。
			・地域の課題の考察に自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、地域の担い手として主体的に社会に関わろうとする。	態度	●地域の課題の考察に自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、地域の担い手として主体的に社会に関わろうとしている。
54	p.122～125	■まとめの活動 第3章の学習をまとめよう ■まとめの活動 S市の議員になって 条例を作ろう	・第3章の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治や国の政治の在り方、地方自治の課題とその解決策について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。	思判表	○第3章の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治や国の政治の在り方、地方自治の課題とその解決策について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
			・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	態度	○民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
-	p.126～127	[もっと知りたい！] 東日本大震災からの復興と防災 一仙台市を例に考える	・東日本大震災で被害を受けた地方公共団体が、復興と防災に向けてどのような取り組みを行っているか考察する。	思判表	●防災や減災を踏まえたまちづくりの実現を目指して、解決すべき課題を探究し、自分たちにできることは何か考察している。
			・東日本大震災からの復興について社会の担い手として持続可能な社会づくりに向けて、主体的に社会に関わろうとする。	態度	●東日本大震災からの復興と防災対策に関心を持ち、その実現のために各地方公共団体が行っている取り組みや課題について調べることを通して、主体的に社会に関わろうとしている。
-	p.128	[もっと知りたい！] 空き家・廃校は新たな資源	・空き家や廃校の増加という実社会における課題を理解する。	知技	●空き家や廃校の増加という実社会における課題を理解している。
			・空き家や廃校の増加という実社会における課題の解決策を効率と公正などに着目して考察する。	思判表	●空き家や廃校の増加という実社会における課題の解決策を効率と公正などに着目して考察している。
			・空き家や廃校の増加という実社会における課題の考察を通して、主体的に社会に関わろうとする。	態度	●空き家や廃校の増加という実社会における課題の考察を通して、主体的に社会に関わろうとしている。

第4章 私たちの暮らしと経済

(配当24時間)

◆評価規準の例（章全体）

指導 目標	・身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解させる。	知識・技能	○身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解している。
	・市場経済の基本的な考え方について理解させる。その際、市場における価格の決まり方や資源の配分について理解させる。		○市場経済の基本的な考え方について理解している。その際、市場における価格の決まり方や資源の配分について理解している。
	・現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させる。		○現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解している。
	・勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神について理解させる。		○勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神について理解している。
	・社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解させる。		○社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解している。
	・財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解させる。		○財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解している。
	・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任や、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現している。
	・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割や、財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。		○対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現している。
	・市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。		○対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
	・国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	主体的に学習に取り組む態度	○市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
			○国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

1 節 消費生活と経済

(配当 6 時間)

学習指導要領との関連 : B (1) (2)

◆評価規準の例 (節全体)

指導 目標	・身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解させる。	知識・技能	○身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解している。
	・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現している。
	・市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

◆評価規準の例 (各時間)

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
55	p.129～ 131	■章扉 ■導入の活動 コンビニエンス ストアの経営者になっ てみよう	・コンビニエンスストアの立地について具体的な事例を整理し、自らの考えとともに表 (マトリックス) にまとめる。	知技	●コンビニエンスストアの立地について具体的な事例を整理し、自らの考えとともに表 (マトリックス) にまとめている。
			・コンビニエンスストアの立地について、経済活動における限られた資源の選択の下、経営者や消費者などの立場から多面的・多角的に考察し、表現する。	思判表	●コンビニエンスストアの立地について、経営者や消費者、労働者の立場から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
			・私たちと経済との関わりについての考察に向けて、章の学習の見通しを持って取り組もうとする。	態度	●コンビニエンスストアの立地について考える活動を通して、私たちと経済との関わりについての考察に向けて、章の学習の見通しを持って取り組もうとしている。
56	p.132～ 133	1 私たちの消費生活	・私たちの消費生活と経済との関わりについて理解する。	知技	●私たちが日常生活の中でしている消費活動について理解している。
			・より良い消費生活を送るために必要なことについて考察、表現する。	思判表	●より良い消費生活を送るために必要なことについて考察、表現して、いる。
57	p.134～ 135	2 契約と消費生活	・消費者にとって契約とは何かを理解する。	知技	●消費者主権とはどのようなことを意味しているか、本文の読み取りを通して理解している。
			・契約を結ぶ際に注意すべき点について、自由や義務に着目して考察し、表現する。	思判表	●契約を結ぶ際に注意すべき点について、自由や義務に着目して考察し、表現している。
58	p.136～ 137	3 消費者の権利を守るために	・消費者に保障されている権利や果たすべき責任について理解する。	知技	●消費者の権利を守るための制度や法律について、本文の読み取りを通して理解している。
			・自立した消費者であるためにはどうすべきか考察し、表現する。	思判表	●自立した消費者であるためにはどうすべきか、判断や責任に着目して考察し、表現している。

59	p.138～ 139	[18歳へのステップ] 契約と支払い方法 のあれこれ	・身近な消費生活にある契約の事例を基に、より良い消費者の在り方を考察する。	思判表	●身近な消費生活にある契約の事例を基に、これまでの学習をふり返りながら消費者の在り方を多面的・多角的に考察している。
			・さまざまな契約の事例や決済方法を知ることを通して、より良い消費生活を目指す意識を持つ。	態度	●消費者の一人として、契約を結ぶ際の注意点に関心を持ち、より良い消費生活に向けて主体的に社会に関わろうとしている。
60	p.140～ 141	4 消費生活を支える流通	・商品がどのように消費者の元に届くか、仕組みについて理解する。	知技	●身近な地域にある、流通に関連した仕事について理解している。
			・流通の合理化がもたらす影響について考察する。	思判表	●流通の合理化がもたらす影響について考察している。
			・1節の学習内容を基に、身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解する。	知技	○1節の学習内容を基に、身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解している。
			・1節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、消費生活や流通に関するさまざまな事例を基に、個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現する。	思判表	○1節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、消費生活や流通に関するさまざまな事例を基に、個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現している。
			・市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする。	態度	●市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。

2 節 生産と労働

(配当 5 時間)

学習指導要領との関連 : B (1) (2)

◆評価規準の例 (節全体)

指導 目標	・現代の生産などの仕組みや働き、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の方法について理解させる。	知識・技能	○勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の方法について理解している。
	・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察させ、表現させる。	思考・判断・表現	○対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現している。
	・市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

◆評価規準の例 (各時間)

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
61	p.142～ 143	1 生産活動と企業	・私たちの生活に必要なものはどのように生産されているか理解する。	知技	●私たちが日常生活の中で消費している財やサービスについて調べ、まとめている。
			・身近にある財やサービスの生産における分業と交換の良い点を、効率の観点から考察し、表現する。	思判表	●身近にある財やサービスの生産における分業と交換の良い点を、効率の観点から考察し、表現している。
62	p.144～ 145	2 企業の種類	・企業にはどのような種類があるかについて理解する。	知技	●情報を適切に収集・選択し、読み取る学習を通して、身近な地域にあるさまざまな企業について調べ、まとめている。
			・自分が起業するとしたら、どのような企業を創るか、企業の社会的責任に着目して、具体的な事例を基に考察し、表現する。	思判表	●起業する場合どのような企業を創るのが良いか、企業の社会的責任に着目して考察し、表現している。
63	p.146～ 147	3 株式会社の仕組み	・株式会社の仕組みについて理解する。	知技	●株式とはどのようなものか理解している。
			・株主の権利や責任について、配当や投資と関連付けて、考察し、表現する。	思判表	●株主の権利や責任について、配当や投資と関連付けて考察し、表現している。
64	p.148～ 149	4 労働の意義と労働者の権利	・労働者の権利を守るための取り組みについて理解する。	知技	●労働者の権利について、本文の読み取りを通して理解している。
			・多様な働き方が求められている背景を、個人の尊重の観点から考察し、表現する。	思判表	●多様な働き方が求められている背景を、個人の尊重の観点から考察し、表現している。

65	p.150～ 151	5 労働環境の変化 と課題	・労働をめぐる環境の違いについて理解する。	知技	●正規労働者と非正規労働者の違いについて理解している。
			・労働環境の変化と課題について考察し、表現する。	思判表	●労働環境の課題を解決し、いきいきと働ける社会の実現に向けて考察し、表現している。
			・2節の学習内容を基に、現代の生産などの仕組みや働き、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の意味について理解する。	知技	○2節の学習内容を基に、現代の生産などの仕組みや働き、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の意味について理解している。
			・2節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現する。	思判表	○2節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現している。
			・市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする。	態度	●市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。

3 節 市場経済の仕組みと金融

(配当 6 時間)

学習指導要領との関連 : B (1)

◆評価規準の例 (節全体)

指導 目標	・市場経済の基本的な考え方について理解させる。その際、市場における価格の決まり方や資源の配分について理解させる。	知識・技能	○市場経済の基本的な考え方について理解している。その際、市場における価格の決まり方や資源の配分について理解している。
	・現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させる。		○現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解している。
	・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現している。
	・市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

◆評価規準の例 (各時間)

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
66	p.152～ 153	1 市場経済と価格の決まり方	・市場経済における価格の決定について理解する。	知技	●需要量と供給量とはどのようなことを意味しているのかについて理解している。
			・希少性に着目して、それと価格との関係について、需要量と供給量を関連付けながら、表現する。	思判表	●希少性と価格との関係について、需要量と供給量を関連付けながら考察、表現している。
67	p.154～ 155	2 価格の働き	・市場経済における価格の働きについて理解する。	知技	●市場経済における価格の働きについて理解している。
			・市場経済において価格が果たしている役割を、効率の観点から適切に表現する。	思判表	●市場経済において価格が果たしている役割を、効率に着目して考察し、表現している。
68	p.156～ 157	3 貨幣の役割と金融	・身近な事例を基に、貨幣の役割や金融の働きについて理解する。	知技	●貨幣の役割や金融の働きについて、本文の読み取りを通して理解している。
			・直接金融と間接金融の違いについて、株式や金融機関を関連付けながら、適切に表現する。	思判表	●直接金融と間接金融の違いについて、株式や金融機関を関連付けながら、表現している。
69	p.158～ 159	4 銀行と新しい金融	・私たちの生活で銀行が果たす役割について理解する。	知技	●私たちの生活で銀行が果たす役割について理解している。
			・私たちの生活と銀行の関係について、銀行の役割に着目して、具体的な事例を基に多面的・多角的に考察し、表現する。	思判表	●私たちの生活と銀行の関係について、銀行の役割に着目して、具体的な事例を基に多面的・多角的に考察し、表現している。
70	p.160～ 161	5 景気と金融政策	・景気変動に対してどのような取り組みがなされているのかについて理解する。	知技	●景気変動について、本文や資料の読み取りを通して理解している。
			・景気の変動に対して、どのような取り組みがなされているのかについて、日本銀行の金融政策と景気を関連付けながら考察し、表現する。	思判表	●景気の変動に対して、どのような取り組みがなされているのかについて、日本銀行の金融政策と景気を関連付けながら考察し、表現している。

71	p.162～ 163	6 グローバル経済 と金融	・経済や金融のグローバル化について理解する。	知技	●経済や金融のグローバル化について理解している。
			・経済や金融のグローバル化が私たちの生活にどのような影響を与えているか考察する。	思判表	●商品の価格が円高、円安によってどのように変動するか考察している。
			・3節の学習内容を基に、市場経済の基本的な考え方について理解する。その際、市場における価格の決まり方や資源の配分について理解する。	知技	○3節の学習内容を基に、市場経済の基本的な考え方について理解している。その際、市場における価格の決まり方や資源の配分について理解している。
			・3節の学習内容を基に、現代の生産や金融などの仕組みや働きについて理解する。	知技	○3節の学習内容を基に、現代の生産や金融などの仕組みや働きについて理解している。
			・3節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察、表現する。	思判表	○3節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現している。
			・市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする。	態度	●市場の働きと経済について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。

4 節 財政と国民の福祉

(配当 4 時間)

学習指導要領との関連 : B (2)

◆評価規準の例 (節全体)

指導 目標	・社会資本の整備、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解させる。	知識・技能	○社会資本の整備、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解している。
	・財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解させる。		○財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解している。
	・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。	思考・判断・表現	○対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
	・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現させる。		○対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現している。
	・国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

◆評価規準の例 (各時間)

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
72	p.164～ 165	1 私たちの生活と 財政	・私たちが納める税金の種類や仕組みについて、理解する。	知技	●私たちが日常生活の中で納めている税金について理解している。
			・公正の観点から税金の負担について考察する。	思判表	●憲法で、国民に納税の義務がある理由について、税金の役割に着目して考察し、表現している。
73	p.166～ 167	2 財政の役割と課題	・身近な社会資本や公共サービスについて調べ、政府が果たしている経済的な役割と課題を理解する。	知技	●公共サービスは、どこがどのように提供しているか、本文から読み取る学習を通して、理解している。
			・政府の財政政策と景気との関係について、公共投資や民間企業と関連付けながら考察し、表現する。	思判表	●政府の財政政策と景気との関係について、公共投資や民間企業と関連付けながら考察し、表現している。
74	p.168～ 169	3 社会保障の仕組みと課題	・我が国の社会保障制度の仕組みについて理解する。	知技	●私たちが日常生活の中で利用している社会保障制度について理解している。
			・社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障制度のあらましを理解したうえで、これからの社会保障制度について、持続可能性の観点から考察し、表現する。	思判表	●社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障制度のあらましを理解したうえで、これからの社会保障制度について、持続可能性の観点から考察し、表現している。

75	p.170～ 171	4 少子高齢化と財政	・少子高齢化の財政への影響について理解する。	知技	●現役世代が納める保険料の負担が大きくなっている理由について理解している。
			・少子高齢社会における社会保障制度の充実と経済成長の両立が難しい理由を、増税の影響に着目して考察し、表現する。	思判表	●社会保障制度の充実と経済成長との両立が難しい理由を増税の影響に着目して考察している。
			・4節の学習内容を基に、社会資本の整備、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解する。	知技	○4節の学習内容を基に、社会資本の整備、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解している。
			・4節の学習内容を基に、財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解する。	知技	○4節の学習内容を基に、財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解している。
			・4節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現する。	思判表	○4節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現している。
			・4節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現する。	思判表	○4節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現している。
			・国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする。	態度	●国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。

5 節 これからの経済と社会

(配当 3 時間)

学習指導要領との関連 : B (2)

◆評価規準の例 (節全体)

指導 目標	・公害の防止など環境の保全について、その意義を理解させる。	知識・技能	○公害の防止など環境の保全について、その意義を理解している。
	・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。	思考・判断・表現	○対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
	・国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

◆評価規準の例 (各時間)

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
76	p.172～ 173	1 公害の防止から循環型社会の形成へ	・環境保全と経済成長の両立のためになされている取り組みについて理解する。	知技	●四大公害病の経緯や地球環境問題、それらを防止するための住民や国、地方公共団体、企業の取り組みについて、具体的な事例を通して理解している。
			・循環型社会を実現し、環境を保全するためにどうすべきか、持続可能性の観点から、自分事として考察し、表現する。	思判表	●循環型社会を実現し、環境を保全するためにどうすべきか、持続可能性の観点から、自分事として考察し、表現している。
77	p.174～ 175	2 経済の持続可能性と真の豊かさ	・経済的な豊かさの基準にどのようなものがあるか理解する。	知技	●経済的な豊かさの基準にどのようなものがあるか理解している。
			・持続可能な社会を創るために、経済はどのような役割を果たすべきか、豊かさに着目して多面的・多角的に考察、構想し、議論する。	思判表	●これからの社会に必要な豊かさについて考察している。
			・5 節の学習内容を基に、公害の防止など環境の保全について、その意義を理解する。	知技	○5 節の学習内容を基に、公害の防止など環境の保全について、その意義を理解している。
			・5 節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。	思判表	○5 節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
			・これからの経済と社会について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする。	態度	●これからの経済と社会について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。

78	p.176～ 179	<p>■まとめの活動 第4章の学習をまとめよう</p> <p>■まとめの活動 コンビニエンスストアの新たなサービスを企画しよう</p>	<p>・第4章の学習内容をふり返って、経営者の視点や、効率と公正などの観点に着目して多面的・多角的に考察、構想し、企画書に自分の考えを表現する。</p>	<p>思判表</p> <p>○第4章の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任や、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善、また、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割や、財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p>
			<p>・新サービスを企画する活動から第4章の学習内容をふり返り、「これからの社会で、私たちはどのようにして経済に関わっていくべきか」を考察することを通して、主体的に社会に関わろうとする。</p>	<p>態度</p> <p>○市場の働きと経済や、国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</p>
-	p.180	<p>[もっと知りたい!] 公害のない社会へ —水俣市を例に考える</p>	<p>・水俣市の事例を基に、環境保全を通して都市発展を目指す取り組みがあることについて調べ、それらを理解する。</p>	<p>知技</p> <p>●水俣市の事例を基に、公害の原因と被害、公害の克服について調べる学習を通して、それらを理解している。</p>
			<p>・水銀に関する水俣条約を基に、持続可能性の観点からこれからの環境保全について多面的・多角的に考察し、表現する。</p>	<p>思判表</p> <p>●水銀に関する水俣条約を基に、持続可能性の観点からこれからの環境保全について多面的・多角的に考察し、表現している。</p>

◆評価規準の例（章全体）

指導 目標	・世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解させる。その際、領土（領海、領空を含む）、国家主権、国際連合の働きなど基本的な事項について理解させる。	知識・技能	○世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解している。その際、領土（領海、領空を含む）、国家主権、国際連合の働きなど基本的な事項について理解している。
	・地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解させる。		○地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解している。
	・対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、国際連合、地域主義などの国際社会の仕組みが抱える課題や貧困、地球環境などの国際問題、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現させる。	思考・判断・表現	○対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、国際連合、地域主義などの国際社会の仕組みが抱える課題や貧困、地球環境などの国際問題、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
	・世界平和と人類の福祉の増大について、国際社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする。	主体的に学習に取り組む態度	○世界平和と人類の福祉の増大について、国際社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。

1 節 国際社会の仕組み

(配当 6 時間)

学習指導要領との関連 : D (1)

◆評価規準の例 (節全体)

指導 目標	・世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解させる。その際、領土（領海、領空を含む）、国家主権、国際連合の働きなど基本的な事項について理解させる。	知識・技能	○世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解している。
	・対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、国家や国際連合、地域主義などの国際社会が抱える課題について多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○領土（領海、領空を含む）、国家主権、国際連合の働きなど基本的な事項について理解している。
	・主権国家や国際連合、地域主義など、国際社会のさまざまな主体について関心を持ち、主体的に社会に関わろうとさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●主権国家や国際連合、地域主義など、国際社会のさまざまな主体について関心を持ち、主体的に社会に関わろうとしている。

◆評価規準の例 (各時間)

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
79	p.181～ 183	■章扉 ■導入の活動 SDGsから地球規模の課題についてとらえよう	・諸課題に対してSDGsの目指すゴールと関連付けてまとめる。	知技	●SDGsの理解を基に、地球規模の課題について具体的な事例を整理し、自らの考えとともにロジックツリーにまとめている。
			・地球規模の課題について対話的な活動を通して持続可能性に着目して考察し、表現する。	思判表	●地球規模の課題について対話的な活動を通して持続可能性に着目して、適切に表現している。
			・地球規模の課題の解決にむけて、章の学習に見通しを持って取り組もうとする。	態度	●地球規模の課題の解決にむけて、章の学習に見通しを持って取り組もうとしている。
80	p.184～ 185	1 国際社会における国家	・国際社会において国家がたがいに尊重し合うものについて理解する。	知技	●国家の三つの要素のうちの領域と主権がどのようなものか、本文や資料の読み取りを通して理解している。
			・国際法が国際社会の中で重要な理由について、協調に着目して考察する。	思判表	●国際法が国際社会の中で重要な理由について、協調に着目して考察している。
81	p.186～ 187	2 領土をめぐる問題の現状	・竹島、北方領土、尖閣諸島をめぐる問題の解決に向けた取り組みについて理解する。	知技	●竹島、北方領土、尖閣諸島をめぐる問題の起こった経緯や現状について、本文や資料の読み取りを通して理解している。
			・日本の領土をめぐる問題の現状を理解し、日本の外交上の課題について考察する。	思判表	●地理や歴史での学習をふまえて、領土問題の解決策について考察し、表現している。
82	p.188～ 189	3 新興国の台頭と経済格差	・新興国の台頭などの国際関係の変化について、理解する。	知技	●南北問題と南南問題について理解している。
			・世界の国々の間に経済格差が生まれる理由について考察する。	思判表	●発展途上国に求められる援助について持続可能性の観点から考察している。

83	p.190～ 191	4 国際連合の仕組みと役割	・国際連合の仕組みや活動について、総会、安全保障理事会、UNESCO、UNICEFなどの具体的な活動を通して理解する。	知技	●国際連合の目的と、その目的を実現するための組織や活動について、調べる活動を通して理解している。
			・国際連合の役割と抱えている課題について、さまざまな資料を基に考え、話し合う。	思判表	●国際連合の活動に対する日本の役割について、国連の役割に着目して考察し、表現している。
84	p.192～ 193	5 国際的な経済制度	・国際経済の発展に資する制度や地域主義の動きについて、具体的な事例を通して理解する。	知技	●国際経済の発展に資する制度や地域主義の中で進んでいる結び付きの内容について、本文や資料の読み取りを通して理解している。
			・世界のさまざまな地域主義の動きが強くなってきている理由について考察する。	思判表	●地域主義で国際協力の体制が作られることの利点と課題について考察し、表現している。
			・1節の学習内容を基に、世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解する。	知技	○1節の学習内容を基に、世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解している。
			・1節の学習内容を基に、領土（領海、領空を含む）、国家主権、国際連合の働きなど基本的な事項について理解する。	知技	○1節の学習内容を基に、領土（領海、領空を含む）、国家主権、国際連合の働きなど基本的な事項について理解している。
			・1節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、国家や国際連合、地域主義などの国際社会が抱える課題について多面的・多角的に考察し、表現させる。	思判表	○1節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、国家や国際連合、地域主義などの国際社会が抱える課題について多面的・多角的に考察し、表現している。
			・国際社会のさまざまな主体について関心を持ち、主体的に社会に関わろうとさせる。	態度	●国際社会のさまざまな主体について関心を持ち、主体的に社会に関わろうとしている。

2 節 さまざまな国際問題

(配当 5 時間)

学習指導要領との関連 : D (1)

◆評価規準の例 (節全体)

指導 目標	・ 貧困、難民、地球環境、資源・エネルギーなどの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解させる。	知識・技能	○貧困、難民、地球環境、資源・エネルギーなどの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解している。
	・ 対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、国際問題やその解決策について多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、国際問題やその解決策について多面的・多角的に考察し、表現している。
	・ 国際社会のさまざまな問題について関心を持ち、日本の果たすべき役割を主体的に考え、また、個人として主体的に社会に関わろうとさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●国際社会のさまざまな問題について関心を持ち、日本の果たすべき役割を主体的に考え、また、個人として主体的に社会に関わろうとしている。

◆評価規準の例 (各時間)

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
85	p.194～ 195	1 貧困問題 公正な世界を創る	・ 人口増加や食料供給の偏りなどさまざまな要因が重なり合って貧困問題が発生していることについて理解し、その解決策を考える。	知技	●貧困が起こる理由について、本文や資料の読み取りを通して理解している。
			・ 貧困問題の解決に向けてどのような取り組みが必要か考察する。	思判表	●貧困や飢餓の問題を解決するために、自分にできることを効率と公正の観点から考察し、表現している。
86	p.196～ 197	2 難民問題	・ 難民問題とはどのようなものか理解する。	知技	●難民とはどのような人々のことを指すか、理解している。
			・ 難民問題の解決に向けて必要なことを考察し、表現する。	思判表	●難民問題の解決に必要な取り組みについて、協調や持続可能性の観点から考察している。
87	p.198～ 199	3 地球環境問題	・ 地球にはどのような環境問題があるか理解する。	知技	●地球温暖化が起こっている理由について、本文や資料の読み取りを通して理解している。
			・ さまざまな地球環境問題の解決のための国際協力について、協調に着目して考察する。	思判表	●地球環境問題の解決のために重要なことを、協調の観点から考察し、表現している。
88	p.200～ 201	4 気候変動と資源・エネルギー問題	・ 世界のエネルギーにどのような課題があるか理解する。	知技	●化石燃料をエネルギーの中心として使うことの問題点について理解している。
			・ 日本のエネルギーの供給・消費の現状について理解し、これからの日本のエネルギーの在り方について考える。	思判表	●世界のエネルギー問題の解決に向けて、日本が果たすべき役割について持続可能性の観点から考察し、表現している。
-	p.202～ 203	[もっと知りたい！] これからの日本のエネルギーを考える	・ 戦後日本のエネルギー政策と福島第一原子力発電所事故後のエネルギーの在り方をめぐる議論について理解する。	思判表	●これからの日本のエネルギー政策について、日本の政治・経済・社会の現状や、世界との比較を踏まえて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
			・ これからの日本のエネルギー政策はどうあるべきか考える。	態度	●日本のエネルギー政策についての学習を通して、主体的に社会に関わろうとしている。

89	p.204～ 205	5 平和な世界に向けて	・地域紛争や新しい戦争が起こっていることを理解し、その背景について考える。	知技	●地域紛争や新しい戦争について、これまでの戦争との違いから理解している。
			・戦争のない世界を実現するためにどのような取り組みが必要か、協調の観点から考察する。	思判表	●戦争のない世界を実現するために必要な取り組みを協調の観点から考察し、構想している。
			・2節の学習内容を基に、貧困、難民、地球環境、資源・エネルギーなどの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解する。	知技	○2節の学習内容を基に、貧困、難民、地球環境、資源・エネルギーなどの課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを理解している。
			・2節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、国際問題やその解決策について多面的・多角的に考察し、表現させる。	思判表	○2節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、国際問題やその解決策について多面的・多角的に考察し、表現している。
			・国際社会のさまざまな問題について関心を持ち、主体的に社会に関わろうとさせる。	態度	●国際社会のさまざまな問題について関心を持ち、主体的に社会に関わろうとしている。

3 節 これからの地球社会と日本

(配当 3 時間)

学習指導要領との関連 : D (1)

◆評価規準の例 (節全体)

指導 目標	・世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の尊重と協力、各国国民の相互理解と協力が大切であることを理解させる。	知識・技能	○世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の尊重と協力、各国国民の相互理解と協力が大切であることを理解している。
	・対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、日本国憲法の平和主義を基に、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察し、表現させる。	思考・判断・表現	○対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、日本国憲法の平和主義を基に、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察し、表現している。
	・世界平和と人類の福祉の増大のため、国際協力に主体的に関わろうとさせる。	主体的に学習に取り組む態度	●世界平和と人類の福祉の増大のため、国際協力に主体的に関わろうとしている。

◆評価規準の例 (各時間)

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
90	p.206～ 207	1 世界と協力する 日本	・日本の国際貢献について、途上国の開発や国際協力の面から理解する。	知技	●日本の国際貢献について、本文や資料の読み取りを通して途上国の開発や国際協力の面から理解している。
			・これからの国際社会で日本が果たすべき役割について考察する。	思判表	●これからの国際社会で日本が果たすべき役割について考察し、表現している。
91	p.208～ 209	2 より良い地球社会を目指して	・世界の文化の多様性について理解する。	知技	●多様性を尊重しないことで起こっている課題について、本文や資料の読み取りを通して理解している。
			・持続可能な社会を創り、地球上の全ての人により良い生活を送るために必要なことを考察、構想し、表現する。	思判表	●世界平和の実現のために自分にできることを持続可能性の観点から考察、構想している。
			・3 節の学習内容を基に、世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、各国国民の相互理解と協力が大切であることを理解する。	知技	○3 節の学習内容を基に、世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、各国国民の相互理解と協力が大切であることを理解している。
			・3 節の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、日本国憲法の平和主義を基に、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察し、表現させる。	思判表	○対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、日本国憲法の平和主義を基に、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察し、表現している。
			・世界平和と人類の福祉の増大のため、国際協力に主体的に関わろうとさせる。	態度	●世界平和と人類の福祉の増大のため、国際協力に主体的に関わろうとしている。

92	p.210～ 213	<p>■まとめの活動 第5章の学習をまとめよう</p> <p>■まとめの活動 はちみつの争い</p>	<p>・第5章の学習内容をふり返って、架空の国際問題の解決策について考えることを通して、国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。</p>	思判表	<p>○第5章の学習内容をふり返って、対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p>
			<p>・世界平和と人類の福祉の増大について、国際社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする。</p>	態度	<p>○世界平和と人類の福祉の増大について、国際社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。</p>
-	p.214	<p>[もっと知りたい!] パレスチナ問題と 中東和平</p>	<p>・パレスチナ問題の原因について、歴史的経過を踏まえて理解する。</p>	知技	<p>●本文や資料などを基に、パレスチナ問題の歴史的経過について理解している。</p>
			<p>・現代の中東問題の根本にパレスチナ問題があることに気付き、和平への道について考察する。</p>	思判表	<p>●パレスチナ問題を通して、中東和平と国際平和の実現について考察している。</p>
-	p.215	<p>[もっと知りたい!] 「沖縄復帰50周年」と、日本と世界の平和</p>	<p>・沖縄に米軍基地が多く残されていることについて、歴史的経過を踏まえて理解する。</p>	知技	<p>●沖縄に米軍基地が多く残されていることについて、歴史的経過を踏まえて理解している。</p>
			<p>・平和で安全な日本や世界を確保するために必要なことについて考察し、表現する。</p>	思判表	<p>●平和で安全な日本や世界を確保するために必要なことについて考察し、表現している。</p>

終章 より良い社会を目指して

(配当 4 時間)

学習指導要領との関連 : D (2)

◆評価規準の例 (章全体)

指導 目標	・社会的な見方・考え方を働かせ、私たちがより良い社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述させる。	思考・判断・表現	○社会的な見方・考え方を働かせ、私たちがより良い社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述している。
	・私たちがより良い社会を築いていくために解決すべき課題について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。	主体的に学習に取り組む態度	○私たちがより良い社会を築いていくために解決すべき課題について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

◆評価規準の例（各時間）

累計 時間	頁	主な学習内容	学習目標	評価規準の例	
93 ～ 96	p.217	1 持続可能な社会の形成者として	・持続可能な社会を実現するためには、さまざまな社会の課題を解決することが必要であることを理解する。	知技	●持続可能な社会を実現するためには、さまざまな社会の課題を解決することが必要であることを理解している。
			・地理的分野、歴史的分野、公民的分野の3年間の社会科学学習をふり返り、持続可能な社会の形成者として解決すべき課題の考察に、章の学習の見通しを持って取り組もうとする。	態度	●持続可能な社会の形成者として解決すべき課題の考察に、章の学習の見通しを持って取り組もうとしている。
	p.218～ 221	2 持続可能な社会を実現するために	探究課題の設定		
			・持続可能な社会を実現するための解決すべき社会の課題にはどのようなものがあるか確認し、理解する。	知技	●環境・エネルギー、人権・平和、伝統・文化、防災・安全、情報・技術などに関わる課題を解決することが、持続可能な社会の形成に必要であることを理解している。
				思判表	●これまでの社会科の学習をふり返りながら、持続可能な社会の実現に向けて探究するうえで適切な探究課題を設定している。
			・社会の課題を解決するために自分には何ができるか考え、その解決策を提案することを通して、社会に参画しようとする。	態度	●社会の課題を解決するために自分には何ができるか考え、その解決策を提案することを通して、社会に参画しようとしている。
			資料の収集・中間発表・議論		
			・社会科のまとめとして適した探究課題を設定し、さまざまな方法で考察する。	知技	●設定した探究課題に適した資料を適切に収集し、レポート作成に必要な情報を選択している。
				思判表	●選択した情報を活用して、レポートの構成や内容について構想している。
				思判表	●他の生徒から意見をもらったり、他の生徒の発表と自分の発表を比較したりしながら、見直しを行っている。
	p.222～ 223	3 探究を続ける	レポートの作成・完成		
			・レポートの構成やレポート作成の基本的な約束事に従いレポートを作成する。	知技	●レポートが「探究課題」「課題設定の理由」「研究の方法」「考察」「参考資料」の五つで構成されることを理解し、これに基づいてレポートを作成している。
				態度	○私たちがより良い社会を築いていくために解決すべき課題について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習をふり返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。
			・社会的な見方・考え方を働かせ、私たちがより良い社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述する。	知技	○社会的な見方・考え方を働かせ、私たちがより良い社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述している。